

## 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。  
さて、「【アバディーン・ファンド・セレクション】海外高格付け債ファンドAコース（為替ヘッジあり）」は、2016年3月31日に約款の規定に基づき償還いたしました。ここに運用経過と償還内容をご報告申し上げます。

今後とも当社商品につきまして、一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



## 【アバディーン・ファンド・セレクション】 海外高格付け債ファンド

Aコース：為替ヘッジあり

追加型投信／海外／債券

## 交付運用報告書

繰上償還

償還日：2016年3月31日

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。  
本書記載事項以外の詳細な内容を記載した運用報告書（全体版）は当社ホームページ（右記アドレス）でご覧いただけます。  
書面での交付をご希望の場合には、販売会社を通じて交付いたします。

右記ホームページの左端にある「ファンド情報」のメニューから「運用報告書」を選択することにより、当ファンドの運用報告書（全体版）を閲覧およびダウンロードすることができます。

償還日 (2016年3月31日)	
償還価額	10,906.81円
純資産総額	88百万円
第35期 作成対象期間 (2015年12月11日～2016年3月31日)	
騰落率 (分配金(税引前)再投資後)	3.5%
分配金(税引前)	0円

(注) 騰落率は収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

## アバディーン投信投資顧問株式会社

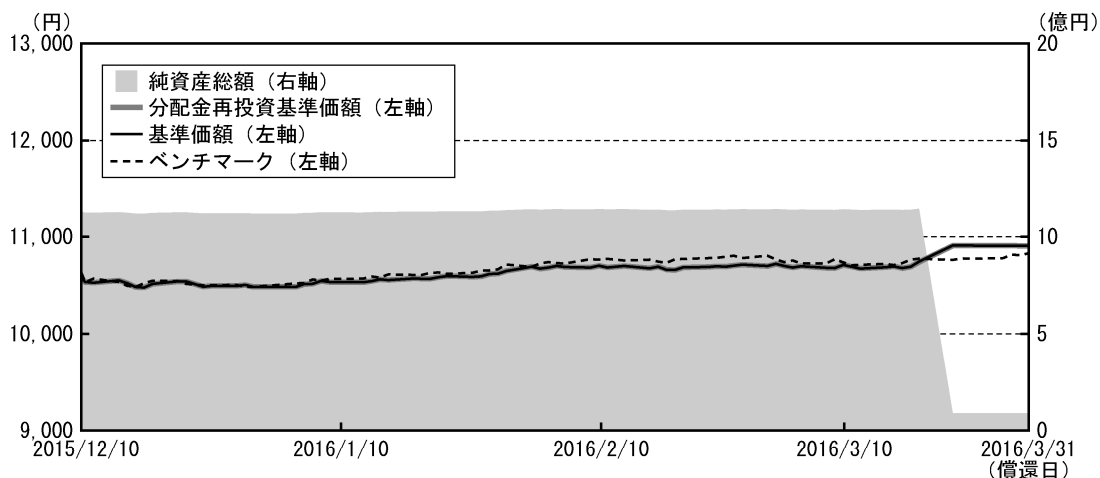
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-2-3 虎ノ門清和ビル  
お問い合わせ窓口 03-4578-2251

(受付時間は営業日の午前9時から午後5時までです。)  
インターネット・ホームページ <http://www.aberdeen-asset.co.jp>

## ●運用経過

### 当期中の基準価額等の推移について

ファンド	当ファンドは2016年3月31日に償還を迎え、基準価額は前期末の10,534円から償還日には10,906.81円、値上がり額は372.81円、当期間の騰落率は3.5%の上昇となりました。
ベンチマーク	当ファンドの騰落率は、ベンチマークであるシティ世界国債インデックス（除く日本/円ヘッジベース）の上昇率2.8%を0.7%上回りました。



- (注1) ベンチマーク（ファンドの運用を行うにあたって運用成果の評価基準又は目標基準とする指標）は、『シティ世界国債インデックス（除く日本、円ヘッジベース）』です。ベンチマークは、基準価額への反映を考慮して基準日前営業日の終値を採用し、期首の値をファンドの基準価額と同一になるように指数化しています。
- (注2) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注3) 分配金を再投資するかどうかについてはファンドおよび販売会社の取り決め、もしくはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なるので、上記の推移がお客様の損益の状況を示すものではありません。

第35期首	10,534円
償還日	10,906.81円（既払分配金（税引前）0円）
騰落率	3.5%（分配金（税引前）再投資ベース）

## 基準価額の主な変動要因

上昇要因	前決算期末の2015年12月から2016年3月末にかけては、世界主要国（日本を除く）の国債をはじめとした各種投資適格債に分散投資し、世界的な金利の低下により保有する証券の値上がりと、クーポン収入により基準価額が上昇しました。
下落要因	2015年末と2016年2月に2回の利上げを行ったメキシコへの投資は、一時的に国債価格が下落することがありました。

## 1万口当たりの費用明細

項目	第35期 (2015年12月11日～ 2016年3月31日)		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
平均基準価額	10,610	—	期中の平均基準価額です。
信託報酬 (委託会社) (販売会社)  (受託会社)	44 ( 22) ( 20)  ( 2)	0.415 (0.207) (0.189)  (0.019)	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 情報提供、各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価 運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料  (先物・オプション)	1  ( 1)	0.009  (0.009)	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
その他費用 (保管費用)  (その他)	1 ( 1)  ( 0)	0.009 (0.009)  (0.000)	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
合計	46	0.433	

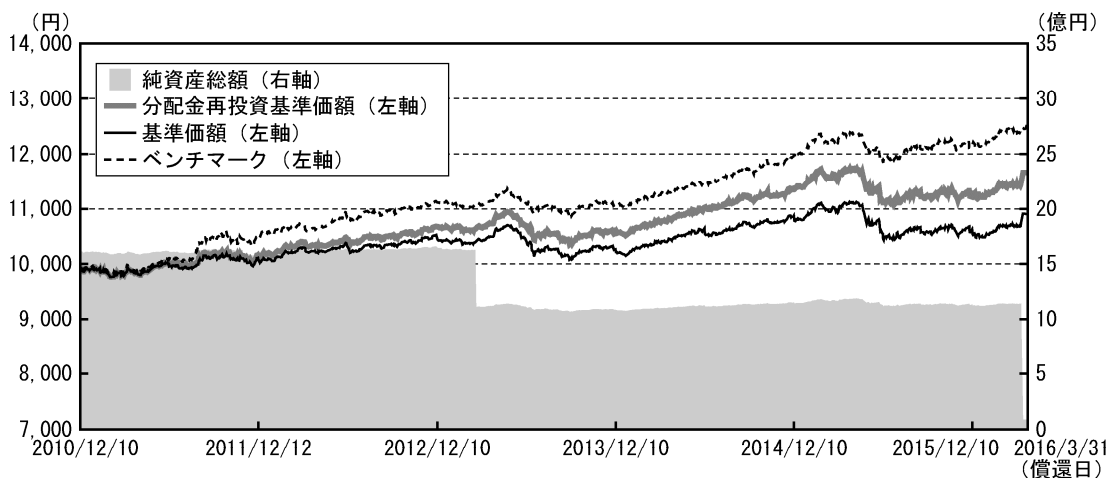
(注1) 費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 「比率」欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注3) 売買委託手数料およびその他費用は、当ファンドが組入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注4) 項目毎に円未満は四捨五入し、単位未満は0円と表示しています。

## 最近5年間の基準価額等の推移について



- (注1) ベンチマーク (ファンドの運用を行うにあたって運用成果の評価基準又は目標基準とする指標) は、『シティ世界国債インデックス (除く日本、円ヘッジベース)』です。ベンチマークは、基準価額への反映を考慮して基準日前営業日の終値を採用し、2010年12月10日の値をファンドの基準価額と同一になるように指数化しています。
- (注2) 分配金再投資基準価額は、収益分配金 (税引前) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注3) 分配金を再投資するかどうかについてはファンドおよび販売会社の取り決め、もしくはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なるので、上記の推移がお客様の損益の状況を示すものではありません。

## 最近5年間の年間騰落率

決算日	2010年12月10日	2011年12月12日	2012年12月10日	2013年12月10日	2014年12月10日	2015年12月10日	2016年3月31日 (償還日)
分配落ち基準価額 (円)	9,932	10,024	10,442	10,199	10,782	10,534	10,906.81
期間分配金合計 (税引前) (円)	—	100	130	130	200	140	80
分配金再投資基準価額騰落率	—	1.9%	5.5%	△1.1%	7.7%	△1.0%	3.5%
ベンチマーク騰落率	—	5.5%	6.0%	△0.2%	8.0%	1.6%	2.8%
純資産総額 (百万円)	1,613	1,584	1,645	1,078	1,142	1,123	88

## 投資環境について

1997年にアジア通貨危機に端を発し、1998年8月に発生したロシアの通貨 (ルーブル) の暴落とルーブル建て国債の債務不履行 (国債償還を5年延期する事実上のデフォルト) など一連の経済危機で世界経済が混乱した1998年11月から運用が始まりました。しかし、その頃を境に世界的にインターネット関連銘柄が急上昇するなどインターネット・バブル (ITバブル) が発生し、2000年には過熱を抑えるために世界的に利上げが繰り返されたことから利回りは高い水準で推移していましたが、次第にバブルが崩壊する中で利回りは大きく低下をはじめました。米国金利の利下げに伴い為替も1米ドルが100円近くだったのが一気に130円台に達するなど円安が進み、2002年には120円

近辺の円安が定着し、2003年に行われた日銀による30兆円規模の円安誘導介入も下支えして、対ユーロも160円台まで大きく下落しました。

米国では1%にまで低下した政策金利を2004年から徐々に引き上げてきたものの、長期金利は高い利回り水準から変動せず、短期金利が長期金利を上回る逆転現象も見られましたが、2008年9月のリーマン・ショックで世界同時不況へと陥り、政策金利の低下に合わせて急低下しました。為替も米国金利の低下で1米ドル120円台から円高が進行し、米国が巨額な金融緩和を開始した後は100円を切るのが常態化しました。2012年12月26日に総理大臣に就任（復帰）した安倍首相のアベノミクスの金融緩和により急速な円安と株高が起これ、為替も1米ドルが100円の水準に戻りました。ユーロ圏のいわゆるP I I G S諸国における国債の信用不安を端緒とする欧州ソブリン危機（欧州債務危機）、さらにはギリシャ経済危機によりヨーロッパの非ユーロ圏やE C Bにおいてもマイナス金利を導入し、ドイツなどユーロ圏の国債利回りはマイナス圏にまで低下しています。

## ポートフォリオについて

当ファンドは対円での為替ヘッジを行うため、為替の影響は受けにくくなっています。

基準価額10,000円で運用を開始したファンドの設定時には、I Tバブルを抑え込もうと世界的に長期金利は急上昇で推移し、基準価額は一時9,000円近くまで下落しました。2001年末頃には景気回復期待を背景に金利は一時上昇する場面も見られましたが、I Tバブル崩壊後は景気指標の悪化や、米国では大手通信会社の粉飾決算を受けた株安、イラク戦争開始に対する懸念などにより、金利は急低下しました。欧州でも株安や欧州景気の悪化、欧州中央銀行（E C B）の利下げなどから米金利をほぼ追隨する動きとなり、2003年ごろには基準価額が10,000円まで戻すこともありました。

2004年6月に米連邦準備理事会（F R B）が利上げを開始すると、それ以降は、会合毎に0.25%の利上げを継続し、金利はしばらく横ばい圏での推移が続きましたが、2006年には景気過熱感が高まり米国では10年債利回りが5.2%台まで上昇しました。同期間のドイツ10年債利回りは、欧州の景気減速やE C Bの利下げを受け、2005年6月に3.0%まで低下しましたが、米金利の上昇、欧州景気回復やE C Bの利上げなどから4.6%程度まで上昇しました。基準価額は再び9,000円近辺まで下落しました。

米サブプライムローン問題やリーマン・ショック等、金融危機の高まりやF R Bの大幅な利下げから、2008年末には米国10年債利回りで2%近辺まで大幅に低下しました。その後、世界的な政策当局の対応により景気回復期待が高まったことから金利は4%程度まで大幅に上昇する局面もありましたが、基準価額も10,000円を回復して2010年6月決算時には初めての分配を行いました。その後は欧州債務危機が深刻化し、F R Bも金融緩和姿勢を強めたため、2012年7月には1.4%程度まで低下しました。同期間のドイツ10年債利回りも、相次ぐ金融危機や欧州債務危機により、1.1%近辺まで低下しました。

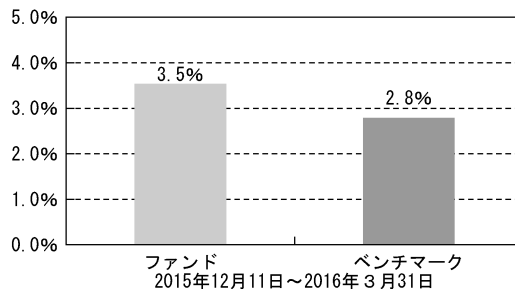
2011年12月以降は、基準価額も10,000円以上で安定したことから毎決算時には配当等収益分を分配いたしましたが、2013年末に米量的金融緩和策の縮小が決定されると米国10年債利回りは一時は3%近辺まで上昇しました。しかし、2014年以降は、世界的な経済成長率の低下やウクライナ・中東等での地政学リスクの高まり、日本やE C Bによる積極的な金融緩和策などから、米国では2015年12月から9年半ぶりに利上げが再開され緩和的な金融政策から転換しましたが、世界的に超低金利が続くなか基準価額も11,000円近くでの償還となりました。

信託期間中、ご愛顧賜りまして誠にありがとうございました。

## ベンチマークとの差異について

前決算期の2015年12月から2016年3月末にかけては、年初から世界的な株式市場の急落等を受け、米国10年債利回りも2.3%程度から1.6%台まで急低下するなど、世界的に金利が低下しました。償還前の大口解約や償還に向けた換金への売買があり、3月後半の円安の影響をやや受けたファンドの騰落率は、ベンチマークを上回りました。

基準価額とベンチマークの対比（騰落率）



## 償還金について

償還金は、10,906.81円となりました。

## ●お知らせ

当ファンドは2016年3月31日に繰り上げ償還いたしました。信託期間中、ご愛顧賜りまして誠にありがとうございました。今後とも当社商品につきまして、一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

## ●当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	2016年3月31日に繰上償還致しました。	
運用方針	世界主要国（日本を除く）の国債をはじめとした各種投資適格債に分散投資します。実質外貨建資産に対し、通貨配分に合わせた為替ヘッジを行います。	
主要投資対象	海外高格付け債ファンド Aコース（為替ヘッジあり）	F S海外高格付け債マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	F S海外高格付け債マザーファンド	日本を除く先進主要国の各種投資適格債（「BBB-」格以上の債券）を主要投資対象とします。
当ファンドの運用方法	海外高格付け債ファンド Aコース（為替ヘッジあり）	マザーファンド受益証券の組入れには制限を設けません。
	F S海外高格付け債マザーファンド	①外貨建資産の投資割合には制限を設けません。 ②株式への投資割合は信託財産の純資産総額の10%以内とします。
分配方針	毎決算時（原則として毎年6月10日および12月10日）に、経費控除後の利子等収益および売買益（評価益を含みます。）等の中から、基準価額の水準等を勘案して分配を行います。ただし、分配金は税金を差引いた後、自動的に全額再投資されます。	

当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。ファミリーファンド方式とは、受益者からの資金をまとめてベビーファンド（当ファンド）とし、その資金を主としてマザーファンドの受益証券に投資して、実質的な運用をマザーファンドで行う仕組みです。



## ● ファンドのデータ

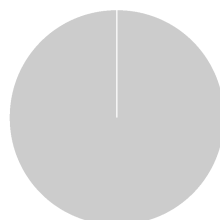
### 当ファンドの組入資産の内容

#### 組入ファンド

2016年3月31日現在、有価証券等の組入れはございません。

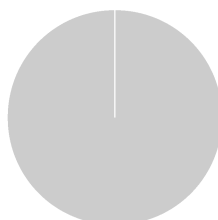
#### 種別配分等

資産別配分



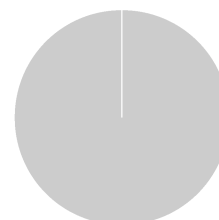
コールローン等、その他  
100.0%

国別配分



日本  
100.0%

通貨別配分



日本円  
100.0%

(注1) 組入ファンド、資産別・国別・通貨別配分の各データは当ファンドの直近の決算日である2016年3月31日現在のものです。

(注2) 組入ファンド、資産別・国別・通貨別配分の各比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

#### 純資産等

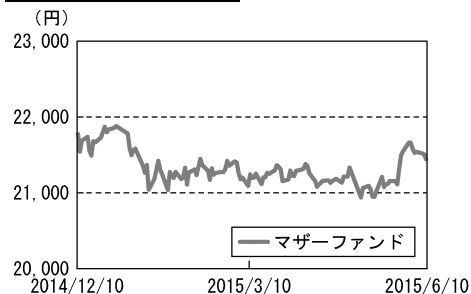
項目	償還時 (2016年3月31日)
純資産総額	88,204,338円
受益権総口数	80,870,866口
1万口当たり償還価額	10,906.81円

(注) 当期における追加設定元本額は2,404,135円、同解約元本額は988,090,596円です。



## 組入ファンドの概要

### ◇ F S 海外高格付け債マザーファンド 基準価額等の推移

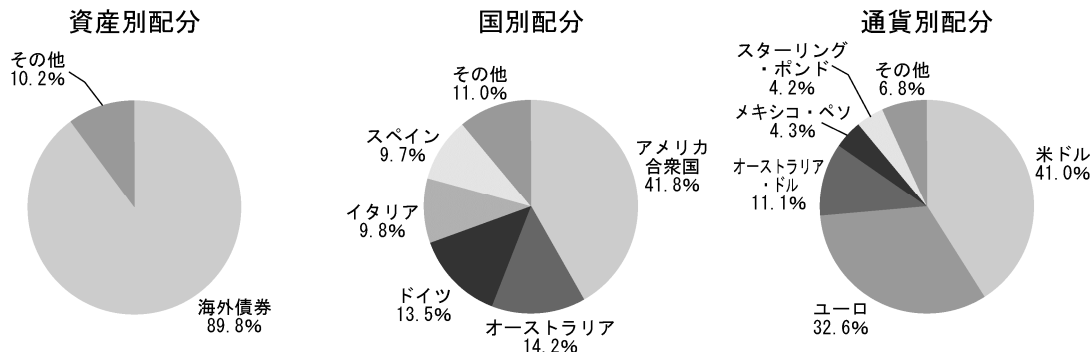


### 組入上位10銘柄

組入銘柄数：64

	銘柄名	クーポン	償還日	組入比率
1	0.625% US TREASURY N/B	0.625%	2016/11/15	12.2%
2	4.5% AUSTRALIAN GOVT	4.500%	2020/04/15	9.7%
3	4.8% BONOS Y OBLIG DEL ESTADO	4.800%	2024/01/31	5.6%
4	1.25% US TREASURY N/B	1.250%	2020/01/31	5.6%
5	1.5% BUNDESREPUB. DEUTSCHLAND	1.500%	2024/05/15	3.7%
6	3.75% US TREASURY N/B	3.750%	2043/11/15	3.5%
7	3.75% BUONI POLIENNALI DEL TES	3.750%	2024/09/01	3.3%
8	10% MEX BONOS DESARR FIX RT	10.000%	2024/12/05	3.0%
9	2.5% SWEDISH GOVT	2.500%	2025/05/12	2.8%
10	4.25% BUNDESREPUB. DEUTSCHLAND	4.250%	2018/07/04	2.8%

### 種別配分等



### 1万口当たりの費用明細

項目	マザーファンドの直近決算期 (2014年6月11日～2015年6月10日)	
	金額(円)	比率(%)
平均基準価額：20,595円		
(a) 売買委託手数料 (先物・オプション)	2 (2)	0.010 (0.010)
(b) その他費用 (保管費用) (その他)	5 (5) (0)	0.024 (0.024) (0.000)
合計	7	0.034

(注1) 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分の各データは当ファンドの直近の決算日である2015年6月10日現在のものです。

(注2) 組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の各比率は純資産総額、国別配分の比率はポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

(注3) 基準価額の推移は当ファンドの直近の計算期間のものです。

(注4) 1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のもので、各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については2ページ(1万口当たりの費用明細の項目の概要)をご参照ください。

\*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。